

最新情報を受け取る方法、お問い合わせについて



dji DELIVERY

dji DELIVERY

DJI FLYCART 100

より多くの配送を実現

販売店名：

電話番号：

DJI FLYCART 100

全く新しいDJI FC100が登場—未来の限界を押し広げます。最大積載量は80kg^[1]、デュアルペイロードシステムに対応し、強力な開発者エコシステムとシームレスに統合します。プロフェッショナルな配送を再定義し、従来の限界を超えて拡大します。そのインテリジェント安全システムと高度な保護機能により、険しい山々から広大な海まで探査を可能にし、無限の可能性の世界を切り開きます。



最大積載量 80 kg^[1]



149.9 kg のペイロードで12 km^[2] の飛行距離



DJI FlyCart 100
フラッグシップ ウィンチ システム



超高速充電



安全性システム／LiDAR
Penta-Vision システム
ミリ波レーダー



まったく新しいワンストップ
ソフトウェアソリューション

フルペイロード、高速かつ効率的

- デュアルバッテリー搭載時の最大積載量85kg^[1]
- 推進効率が32%向上
- 149.9 kg のペイロードで12km^[2]の飛行距離
- 最大水平速度20 m/s
- 5 m/s 最大上昇下降速度
- 1500 m 最大飛行高度

複雑な環境でも簡単に配送

- LiDAR
- 五目ビジョンシステム
- 内蔵型パラシュート
- ARインテリジェント検出^[5]
- 貨物積載時の障害物回避^[11]、ローリングのない安定飛行^[11]

インテリジェントな配送制御、超高速応答

- モジュール式設計、2つのペイロードシステムに対応
- リアルタイム計量、自動バランス制御、ケーブル切断による脱出
- ウィンチシステムは1.2 m/s の格納式速度に対応
- 電動フックは電動開閉^[6]、ワイヤレス充電に対応^[4]
- ウェイポイントアクション、自動荷降ろしに対応

超高速充電、効率的な運用

- 41 Ah大容量バッテリー
- 迅速な放熱のための3チャネル空冷システム
- デュアルバッテリーモードはホットスワップに対応
- 複数の充電方法

簡単な操作、安定した伝送

- 7インチ高輝度スクリーン
- 20 km^[10] Q4 映像伝送
- 4G 強化伝送^[7]
- D-RTK 3 中継機能に対応^[8]
- デュアルコントローラー モード^[9]

新ソフトウェア、オープンエコシステム

- 新DJI配達アプリ
- DJI DeliveryHub
- PSDK E-Port Lite^[10]
- 3000W PSDK充電インターフェース^[10]
- DeliveryHub Sync 2.0^[11]

[1] 積載量はドローンの性能仕様の一つです。運用する際は必ず現地の法律や規制に従ってください。100 kgは、DJI FC100 (DJIデュアルバッテリー吊り下げシステムで動作) をシングルバッテリーモードで使用した場合の積載能力であり、80 kgは、DJI FC100 (DJIデュアルバッテリー吊り下げシステムで動作) をデュアルバッテリーモードで使用した場合の積載能力です。いずれもデュアルバッテリーバッテリー収納部、アクセサリー、ケーブル、フックの重量を含みます。海拔、環境温度25°Cで測定。DJI Deliveryアプリは、現在の機体状態、環境条件、および作業タスクに基づいて、積載量を推奨します。最大積載重量は推奨値を超えてはなりません。推奨値を超えると、飛行安全性に影響を及ぼす恐れがあります。

[2] 本データは、DJI FC100にDJI 吊運システム（双電版）を装着し、双電モードで離陸重量149.9 kgの状態において、海面高度、環境温度 25°C、無風環境下で最適飛行速度で等速飛行し、電池残量 0%に到達した際に測定したもので、この値は、あくまで参考用です。結果は、環境、実際の使用方法、およびファームウェアバージョンによって異なる場合があります。実際の操作中は、常にアプリの表示に注意してください。

[3] アプリまたはボタンによるアクティバートな開閉制御に対応。

[4] 无线充電には、フックを所定の位置までしっかりと締める必要があります。ワイヤレス充電電力制限は45 Wで、Type-C経由でも充電可能で、最大充電電力制限は30 Wです。制限以下で充電することをお勧めします。

[5] AR安全補助機能は、補助的なヒントとしてのみ機能します。オペレーターは、実際の作業時に周囲の環境が安全であることを確認する必要があります。四目観測、FPV カメラなどのセンサーの検出性能は、周囲の光、雨、霧、および障害物の材質、位置、形状などの特性によって異なる場合があります。

[6] 20 km の伝送距離は FCC 規格でのみ実現され、SRRCC 規格では最長伝送距離が 12 km、CE/MIC 規格では最長伝送距離が 10 km です。この値は、一方向の最大通信距離を示します。各基準に準拠した環境で、機体を真っ直ぐに飛ばし、ホームに引き返すことのない状態で測定したもので、あくまで参考用です。飛行中は、DJI Delivery App のRTH（ホーム帰還）に関するプロンプトにご注意ください。

[7] 別途オプションで購入する必要があります。各国／地域で許可されている動作周波数帯は異なります。詳細については、現地の規制を確認してください。（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）

[8] 別売です。

[9] 2つの送信機はオプションで、別途購入が必要です。

[10] 外部ペイロードを接続する場合、DJI FC100 PSDK 接続ケーブルコンボを別途購入する必要があります。

[11] この機能は、将来のファームウェアアップデートで対応予定です。送信機および公式ウェブサイトで、関連するファームウェア更新手順を隨時ご確認ください。